

安倍前総理の寄付問題、国会で議論するほど大問題だったのか？  
再登板を無くしたい与野党議員や、低俗マスコミの妬みの空騒ぎでは？

私は、安倍氏のリーダーとしての海外における「勇姿」を、各国で見続けて来た。日本の首相が、海外それもアフリカ・中東・中南米でまで話題になる事は、歴代どの首相であつてもなかった。

安倍首相は特別であつた。インド・豪州・ケニア・イラン・欧州では一般家庭でさえ写真を見る事が出来た。私が安倍氏と写真に出ているだけで、私のビジネスまで信用された。日本企業は随分仕事が楽だったはずだ。

各国での演説は、その国との歴史問題にも触れ、その国の議員や国民が涙する内容だった。過去の首相からその様な感動的な、堂々とした演説を聞いたことは一度も無い。TVも新聞も各国大きく扱った。一方、日本での扱いは小さかった。仮に立憲枝野や、菅氏に安倍さん並みの演説が出来るとは思えない。

日本国民の大半が、国内での「チマ・チマしたレベルの低い政治論争に目をくらまされて」本来の宰相としての、力強さや、海外での評価が気にならなかったのだろう。

あと5年、安倍首相の再登板が有れば、コロナ禍後の自由世界の協調、日本経済の再建、様々な改革はきっと進み、世界の再興は早まるだろう。

自由社会と戦狼共産、全体主義社会との戦いは避けられない迄に来ている。

ベートーベンの悲願、第九合唱部の歌詞には「友人や愛する人のいる人生の素晴らしさ。」が込められている。

差別・抑圧・人権無視を行っている政権と、庶民の平和を望む、自由主義社会の国々は、妥協せず果敢に戦い、第九フィナーレの様に力強く、最後の勝利の声を挙げねばならない。

今年はワクチンも未だ届かないが、来年暮れには自由主義社会の勝利の賛歌として、世界中で第九を歌おうではないか。

私達は来年、新たに各国で600万人に飲料水を供給する。

25、Dec、2020 小田兼利